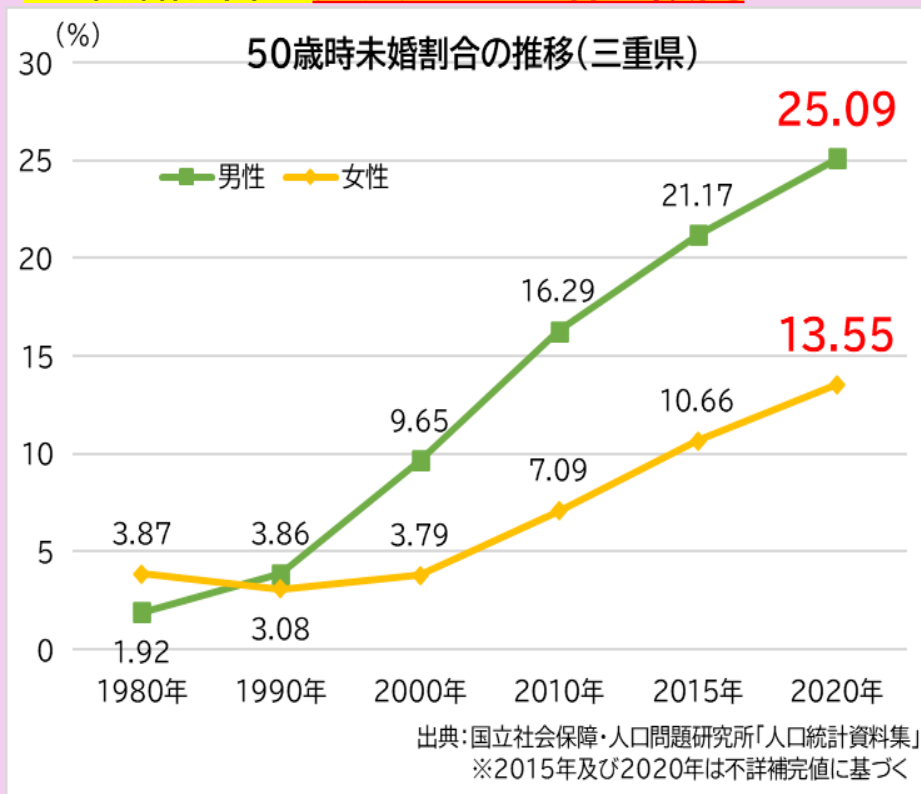
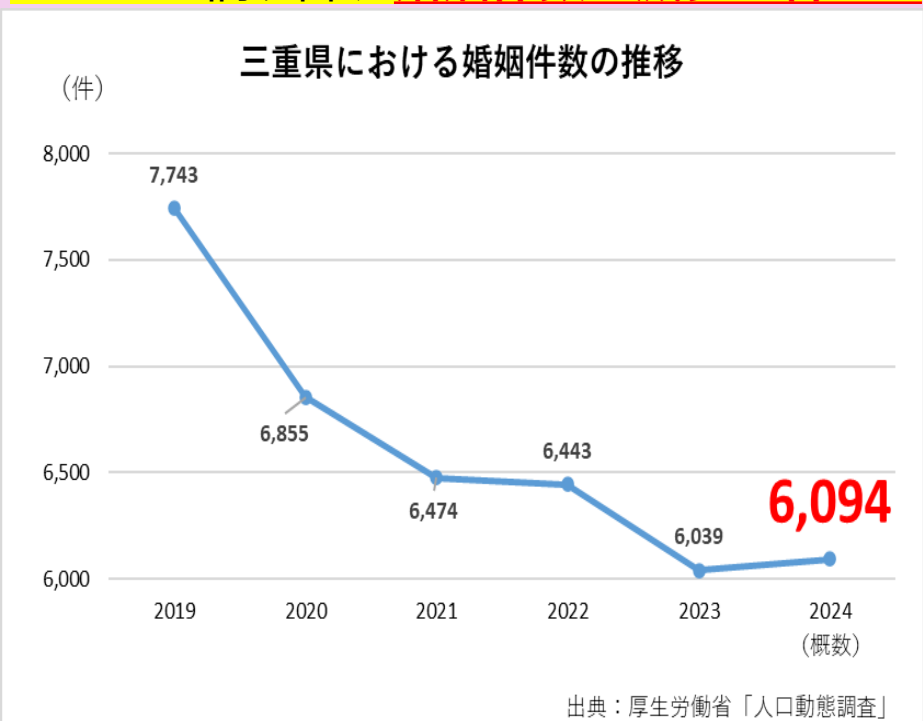


<本県の現状（自然減）>

○未婚割合が男女ともに増加傾向



○コロナ禍以降、婚姻件数の減少が著しい



一方で

【未婚の方（18歳～49歳）のうち、結婚を希望する割合】

○ R 4 : 6 5 . 0 % （うち、18歳～29歳 : 80.0%）

○ R 5 : 6 6 . 0 % （うち、18歳～29歳 : 76.5%）

○ R 6 : 6 1 . 4 % （うち、18歳～29歳 : 75.1%）

※三重県「みえ県民1万人アンケート」（令和4年度～令和6年度）による

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（自然減）>

○10年前と比較した**出生数の減少率（※）は、全国的に見ても大きい**

※出生数の減少率 = 2023年出生数 / 2013年出生数 × 100

		出生数 (2013)	出生数 (2023)	出生数の 減少率	合計特殊出生率 (2023年)
15	三重県	14,514人	9,524人	34.4%	1.29（全国26位） ※2024年（概数） 1.24（全国23位）
45	福岡県	45,898人	33,942人	26.0%	1.26（全国28位）
46	大阪府	72,054人	55,292人	23.3%	1.19（全国38位）
47	東京都	109,986人	86,348人	21.5%	0.99（全国47位）

○理想の子どもの数と実際の子どもの数にギャップが生じている

出典：厚生労働省「人口動態調査」

理想の子どもの数の平均：2.3人

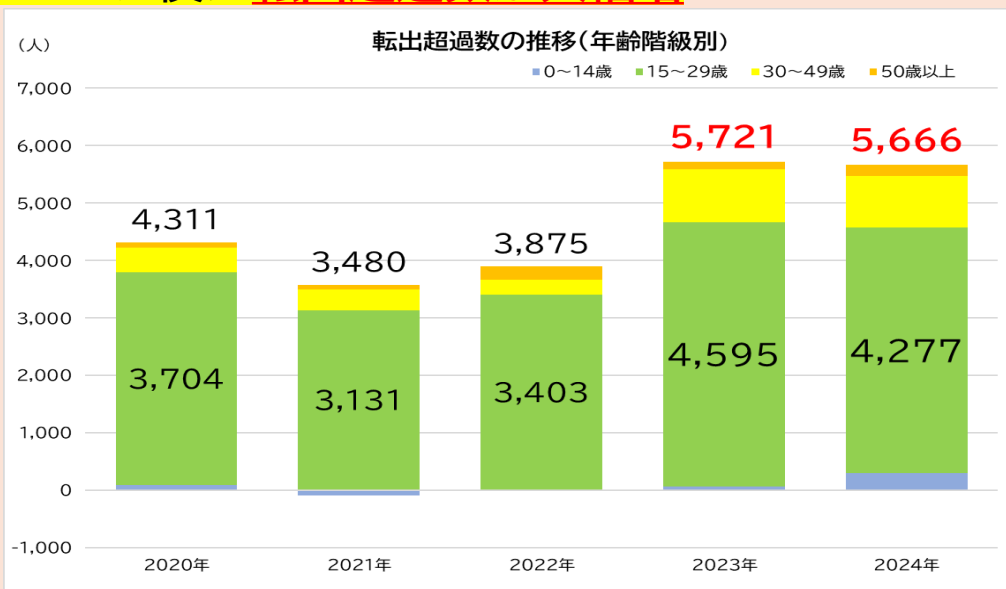
実際の子どもの数の平均：1.6人

※三重県「第3回みえ県民1万人アンケート」（令和6年度）による

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（社会減）>

〇コロナ後に転出超過数が大幅増



<2022年以前>
例年4,000人程度で推移

<2023、2024年>
2年連続で5,000人を超える転出超過数
(2023年5月にコロナ5類移行)

15～29歳の転出超過数の男女構成

	男2019	男2020	男2021	男2022	男2023	男2024	女2019	女2020	女2021	女2022	女2023	女2024
15～19歳	384	458	421	431	457	415	388	290	399	422	413	308
20～24歳	676	721	648	482	1,082	841	1,384	1,272	1,130	1,236	1,319	1,404
25～29歳	494	436	147	351	803	775	648	527	386	481	521	534

要因 県外から県北勢地域への転入者数の減少

	2019	2020	2021	2022	2023
転入者数	14,110	13,861	13,539	14,132	12,786
転出者数	16,181	14,858	14,961	14,972	15,654

転入者数：**1,346人減**

※転出者数：682人増

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（社会減）>

○経済分野におけるジェンダーギャップの存在

（転出超過数のうち、約4割は15～29歳の女性）

- ・三重県の転出超過数：5,666人（日本人移動者）
- ・うち、15～29歳女性：2,246人（**39.6%**）

背景 経済分野におけるジェンダーギャップの存在が指摘されている

※都道府県版ジェンダー・ギャップ指数
（2024年） **経済分野：全国46位**

- ✓ フルタイムの仕事に従事する男女比 **全国42位**
- ✓ フルタイムの仕事に従事する男女間の賃金格差 **全国39位**
- ✓ 共働き家庭の家事・育児などに使用する時間の男女格差 **全国41位**

■都市圏在住の三重県出身者¹へのアンケート

○三重県と転出先それぞれについて、
「女性は子育てや家庭を優先すべきだと
考える人が多い」と感じる割合

三重県：33.9%
転出先：24.9%

○三重県と転出先それぞれについて、
「女性の求人は男性に比べて補助的な仕
事ばかりだ」と感じる割合

三重県：35.4%
転出先：27.4%

■都市圏在住の三重県出身女性²へのヒアリング

東京の会社は福利
厚生がよく、給与
も高い点で魅力的。
（10代女性、東京都在住）

将来的にUターン
は考えているが、
自分に合った仕事
が三重にあるかが
懸念点。
（10代女性、東京都在住）

※三重県「転出者女性の転出理由等に関するアンケート調査及びヒアリング調査」
（令和6年度）による。

¹ 都市圏在住者であり、かつ、三重県に居住経験のある男女及び都市圏への転出経験があり、
かつ、現在三重県に居住する男女

² 都市圏在住者であり、かつ、三重県に居住経験のある女性

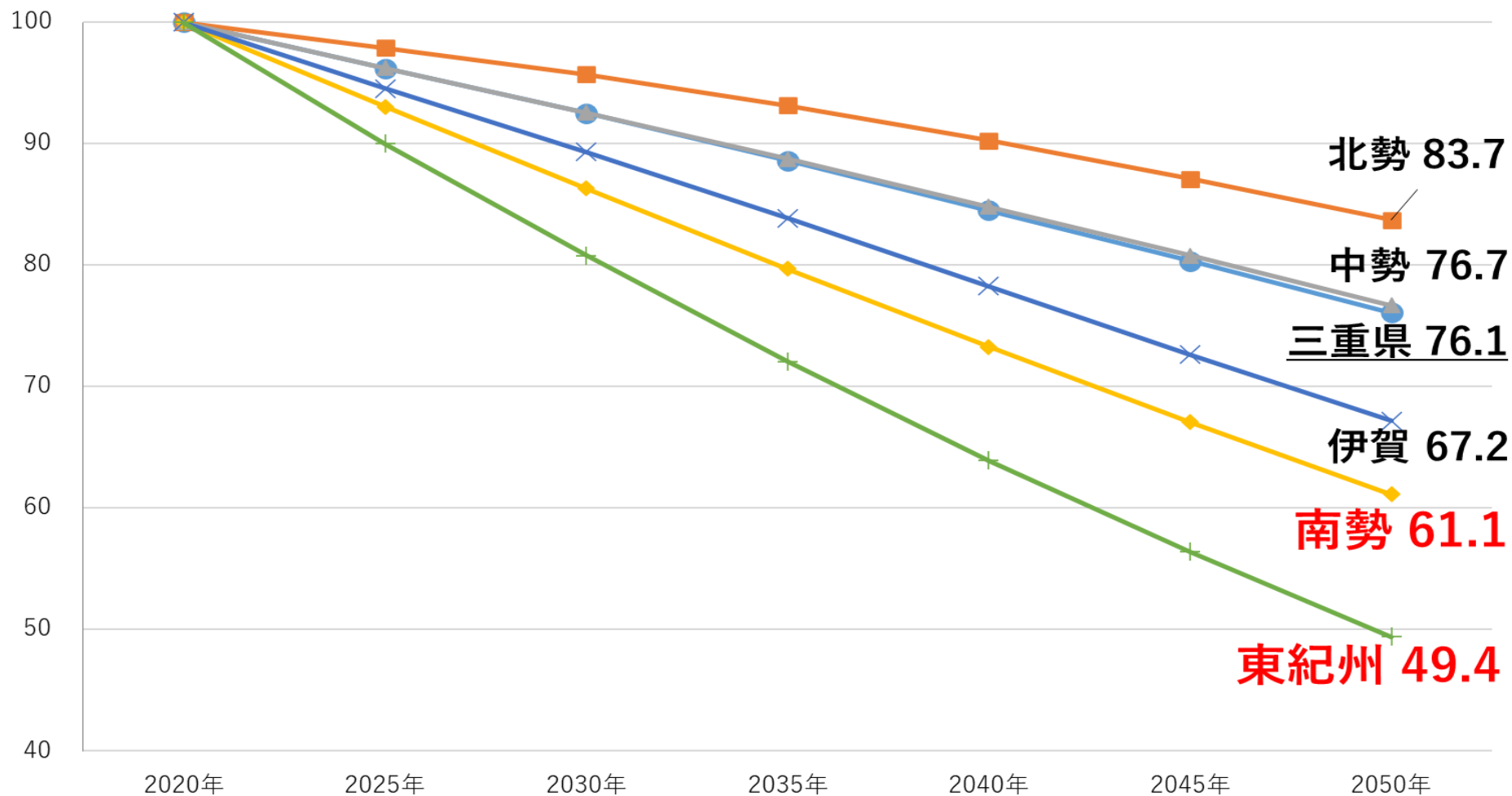
**経済分野におけるジェンダーギャップの解消に向けた取組の方向性を示す戦略
を策定予定（令和7年度）**

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（地域ごとに異なる実情）>

○県南部に位置する**南勢地域・東紀州地域**で特に著しく**人口減少**が進む見込み

県内5圏域別の将来人口の推移（2020年＝100）



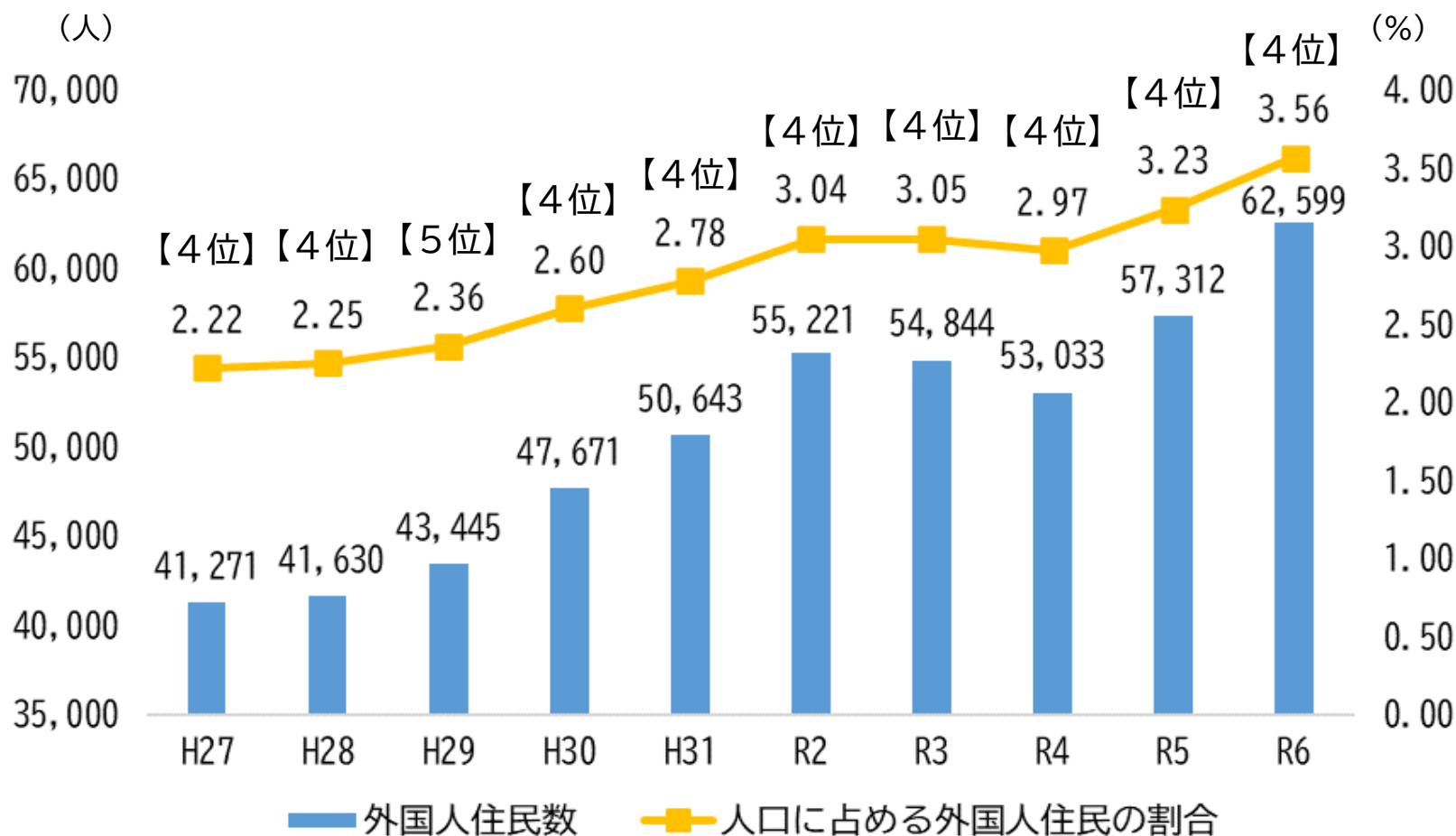
本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（増加する外国人人口）>

○県内の外国人住民数・人口に占める外国人割合は増加傾向

○三重県の人口に占める外国人の割合は、近年概ね**全国第4位**で推移

県内の外国人住民数等の推移



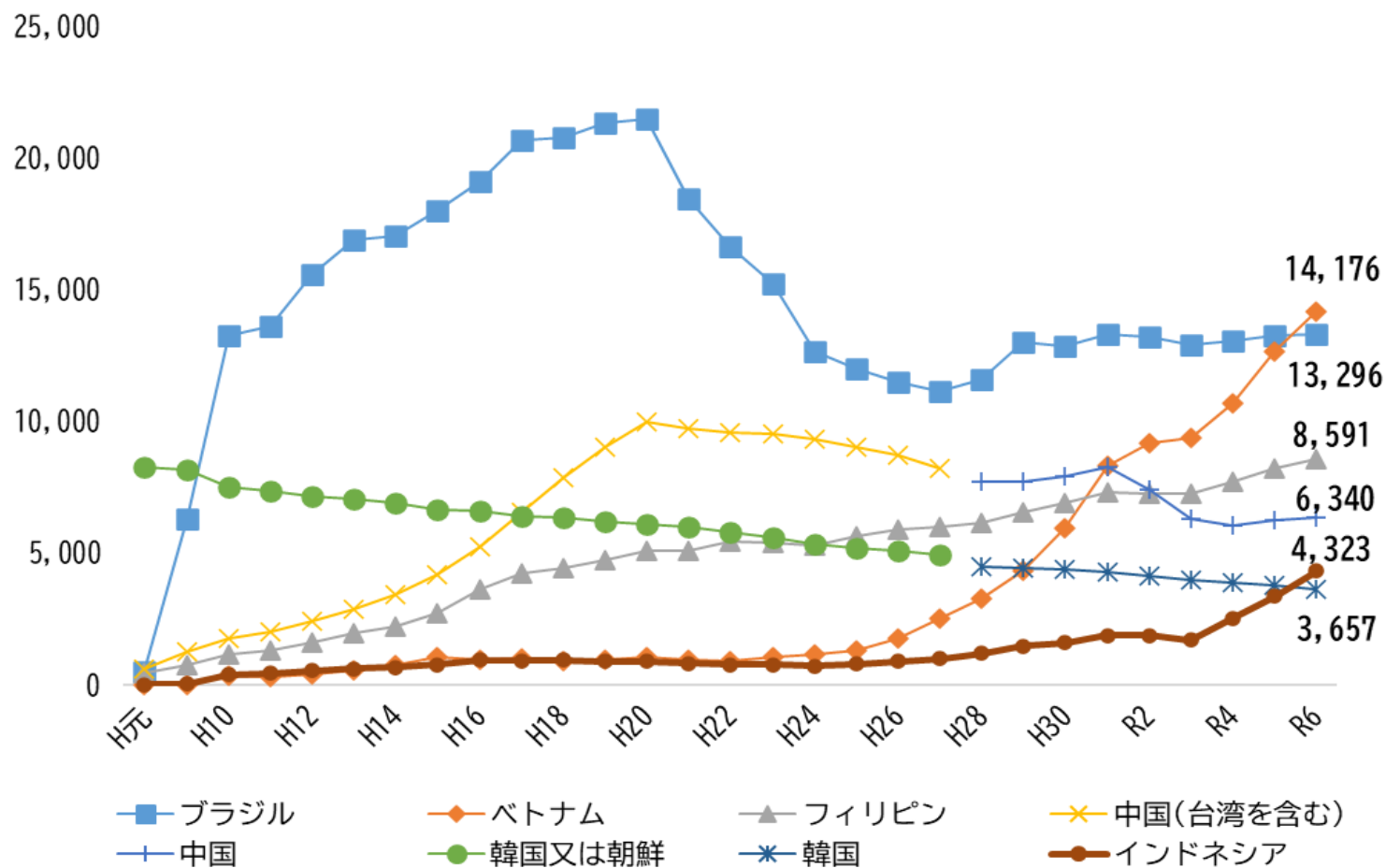
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（各年1月1日現在）を基に作成

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<本県の現状（増加する外国人人口）>

○国籍別にみると、近年ベトナムが急増しており、R6年には県内における住民数がブラジルを抜いて最多となった。

県内の外国人住民数（国籍別）の推移



出典：三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査」

<将来人口推計にあたっての考え方>

1. 推計期間を2080年までとする。

※2022年（県の人口減少対策元年と位置付け）から施策を打ち、効果が出始めるまでの期間を約5年（出会いから結婚までの平均期間）とし、その後半世紀程度かけて効果が出続けることを想定。

2. 地域によって実情が異なることから、県内5圏域ごとに推計を行う。

3. 県民の結婚・出産の希望をふまえた推計とする。

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<社人研推計※¹と県独自推計の考え方の比較>

※1：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

	社人研推計	県独自推計
推計期間	2020年～ 2050年	2020年～ 2080年
<u>自然増減に関する仮定</u>	各市区町村と全国における子ども女性比※²の相対的較差の過去の趨勢を基に仮定 ※2：出生率の代替指標。 出生率が安定せず指標として不適切な際などに使用。 （当該推計においては、<u>0～4歳人口／20～44歳女性人口</u>）	県民の結婚・出産の希望をふまえて設定
<u>社会増減に関する仮定</u>	原則） 過去3期間の移動率の平均的な人口移動傾向を将来に投影 （国内外の移動を含む） ＜三重県における移動＞ 若者の転出超過が継続すると仮定	社人研推計に準拠

本県の現状と将来人口推計にあたっての基本的な考え方

<将来人口推計結果>

2080年までの三重県総人口の推移

